地域の資源を活用した障がい者就労と６次産業化
――NPO法人サトニクラスの取組み――

主事研究員　一瀬裕一郎

札幌から北東へ車をわずかに１時間ばかり走らせると、樺戸郡月形町に到着する（第１図）。人口3,500人弱、農業が主産業の小さな町だ。町内には農家が235戸（2010年）あり、主に米、切り花、果菜類（スイカ、メロン等）を生産している。

障がい者等を雇用して、町内の農家で発生する規格外農産物から漬物を製造しているのが、NPO法人サトニクラス（以下「サトニクラス」）だ。その取組みを紹介したい。

１　サトニクラスの沿革

月形町出身でホクレンOBの楠順一氏が、町内外の有志を募って、12年５月にサトニクラスを設立した。多様な人々が共存共栄できる社会の実現を目指して活動している。活動拠点は月形町南部の歴史ある福祉施設を再利用した建物だ[(注1)]。職員は楠氏を含め５名おり、就労継続支援Ａ型事業所[(注2)]として月形町内外から12名の比較的軽度の障がい者を雇用している。

これまでに、新たな漬物の開発・PRや、漬物作りワークショップの実施などを通じて、地元の資源を活用した地域振興を図るとともに、障がい者やひきこもりの若者といった社会的弱者に社会参加の場を提供してきた。

第１図　月形町の位置

資料　筆者作成

２　漬物の製造と販売

サトニクラスの主たる事業は、漬物の製造である。漬物用農産物は、町内の農家から規格外のキュウリやナス、摘果メロン等を安価に調達している。それらを原料に、ビール漬け、醤油漬け、玄米漬け、粕漬け等、約50アイテムもの漬物を製造している（写真１）。

漬物の製造を担当しているのが、障がい者のスタッフだ。原料の洗浄からカット、漬け込み、袋詰めまでの一連の作業を担う。１日７名でシフトを組んでおり、１名あたり週４日程度の勤務である。スタッフとは通常の雇用契約が結ばれ、雇用保険および労災保険に加入するとともに、時給764円が支払われている。

製造した漬物は、次項で述べる直売所のほか、札幌市内のホクレンショップ「もぎたて市」（２店舗）、札幌駅前の商業ビルESTA内のホクレンショップ「グリーンコート」、イオン

写真１　障がい者のスタッフによる漬物の製造

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

江別店内の福祉コーナー「江別ときめいく」、月形町内の一般小売店で、消費者向けに販売している。また、月形刑務所の職員食堂向けにも漬物を納入している。なお、販路を今後年１店舗ペースで増やしたいと考えている。

3　直売所「花の里・月形」

サトニクラスが事務局を担う「つきがた農福交流推進協議会（以下「協議会」）」が15年２月に設立され、直売所を核として「農」を活用した医療や福祉との連携に取り組んでいる。協議会のメンバーはほかに、月形町役場産業課、同保健福祉課、JA月形町、月形新鮮組、NPO法人コミュニティワーク研究実践センターである。(注3) なお、協議会の取組みは、農林水産省の「平成27年度都市農村共生・対流総合対策交付金（集落連携推進対策、人材活用対策）」に採択された。(注4)

協議会は15年８月に直売所「花の里・月形」を開設した。６月からの５か月間、定休日の火曜日を除く毎日午前10時から午後４時まで

写真２　直売所で販売される漬物

営業している。直売所では、漬物や野菜、切り花などの農産物だけでなく、道内の月形刑務所や帯広刑務所で作られたインテリア用品や食器などの刑務所作業製品も販売している。

4　外部からの作業受託

サトニクラスは外部からの作業受託も行っている。具体的には、JA月形町からは野菜出荷用段ボールの組立作業を、町内の園芸業者からは庭園の除草作業を、それぞれ受託している。障がい者のスタッフ各人の得意分野を考慮し、力仕事や計算など、個々の適性に合った作業を割り振っている。

5　これからの展望

サトニクラスの年間売上高は、15年に約600万円だった。今後は月間売上高100万円（年間売上高1,200万円）が目標である。売上高が目標に達すれば、国・道・町から現在支給されている「障害福祉サービス等給付費」がなくとも、スタッフの賃金を支払えるようになる見込みとのことだ。

＜主要参考資料・WEB サイト＞

・北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課（2014）『障がい者就農ビジネス化人材育成事業成果報告書　北海道内外における「農福連携」の概要と取組み事例』
・NPO法人サトニクラス　http://satoniclass.com/
・月形町　http://www.town.tsukigata.hokkaido.jp/
・つきがた農福交流推進協議会　http://tsukigata.org/
・農林水産省　http://www.maff.go.jp

（いちのせ　ゆういちろう）

（注１）1964年に発足した知的障がい者施設「雪の聖母園（ゆきのせいぼえん）」の創設者であるカトリック神父の故木内藤三郎（きないとうさぶろう）氏が、有志を募り浄財を集めて手作りで建設した、ブロック積み二階建ての由緒ある建物。

（注２）就労継続支援Ａ型事業所とは、企業などに雇用されることが困難な障がい者に対し、雇用契約にもとづき就労に必要な知識と能力の向上を図る訓練などを行う事業所である。なお、障がいが重い人を受け入れるＢ型事業所では雇用契約を締結する必要がない。

（注３）月形新鮮組は楠氏が2000年に立ち上げた農家グループであり、メンバーは16名である。また、NPO法人コミュニティワーク研究実践センターは、札幌市に本部を置き、生活困窮者の自立を支援している。同法人は月形町に生活困窮者支援月形事業所「わくわーく」を設置している。

（注４）複数の集落が市町村、NPO等多様な主体と連携して形成する集落連合体に対し、関係省庁連携の下、地域の特性に応じて、農山漁村の持つ豊かな自然や「食」を観光、教育、福祉等に活用する地域の手づくり活動を総合的に支援することにより、都市と農山漁村の共生・対流の推進を図ることを目的とした交付金。